



「医学界新聞」提供



復刊第171号  
題字 吉岡彌生

# 皇后陛下をお迎えして 世紀の百周年記念式典・祝賀会

なごやかに厳粛に

この刻に会える幸せ

5月のその日、新宿京王プラザホテルあたりは、朝からの小雨に緑深い景色はわずかな陽光に一層の輝きを増す。凜とした空気の中に、世紀の祝典、皇后陛下のご臨席を賜り行われる厳粛な式典を予感させた。

### 当日の運営体制

企画業者により、綿密な運営マニュアルが提示された。すなわち、担当業務、業務内容、理事担当者、京王プラザホテル担当など。式典会場エミネンスについて、各席位置、壇上の指定席位置など。主催者の組織図、記念式典実施要綱、式典祝賀会進行台本案から決定稿まで。

### 招待者

政界、中央省庁、地方自治体、学術、国際交流、女性団体、医科大学、医科大学附属病院、日本医師会長、各県医師会長、近隣弁護士、会計士その他、会員申込リスト。提示されたりリストを基に、庶務、事業代表は橋本会長、石原百周年記念式典実行委員長を中心に、指定席作りに、深夜に及ぶこと多々見られた。出欠の変更が報告されるたびにチェックす

る仕事は、非常に難儀なことに見受けられたが、サラリと仕上げられる早さに、また驚くばかりであった。

### 理事会の準備

約一年前よりそれぞれの部署ごとに仕事を続けてきた。今年に入っては寄付のこと、日本女医会百年史のこと、記念品などのこと、招待客のことなど、企画業者の方とは別の仕事が多く、すでにほとんど仕上げ、その日を持つ姿勢であった。ロゴマークのこと、各記念品、吊看板、立看板、三階宴会玄関、二階樹林側玄関にもお披露目されていた。

さて日が近づくにつれ、緊張は高まっていく。集会のたびにいたたく書類、進行台本など片手にリハーサルに参加する。4月13日、打ち合わせ。企画業者との会議も遅くまで綿密に行われた。5月7日、宮内庁、皇宮警察、警視庁、新宿警察署、ホテル側との打ち合わせ。警護は厳格である。分刻みで行動が警備される。みな緊張そのもの。

宮内庁の方からは、次の三点のご指示をいただいた。自然体で。一般

# 日本女医学会百周年記念式典式辞

日本女医学会長 橋本葉子

薫風緑樹の候、この佳き日、皇后陛下ご臨席の下、各界の皆様、会員の皆様方大勢のご参加を得て、茲に社団法人日本女医学会創立百周年記念式典を挙行できますことを、嬉しく存じます。

江戸時代から明治時代へ変わりました1868年(明治元年)に医師免許規則が改正され、女性で医師を志す者は、医術開業試験に合格するか、外国の医学校を卒業しなければなりません。試験に合格するための養成機関として、東京には済生学会と成成講習所がありました。日本女医学会は済生学会出身の前田園子や吉岡彌生が中心となり、女性の社会的地位の向上を目的とし、同時に女性医師相互の親睦と研修を兼ねた会合を持つために、1902(明治35年)年に創立されました。1913年には日本女医学会誌も創刊されました。

戦前の日本女医学会は、初期の目的

を果たしながら社会活動も活発に行われ、1927年(昭和2年)には普通選成デーに他の婦人団体とともに街頭のピラ撒ぎに参加しております。これは、選挙が厳正に行われるよう、また、婦人参政権取得の早期実現を訴える活動でありました。1928年(昭和3年)には、第1回汎太平洋婦人会議に吉岡彌生が保健問題の日本代表として参加、その講演は名演説であったと伝えられております。1935年(昭和10年)には医薬分業反対全国医師大会にたくさんの女性医師が参加しております。戦時中及び戦後の混乱期には日本女医学会の活動は中断してしまいましたが、1955年(昭和30年)に日本女医学会再建第1回総会が開かれ、1957年(昭和32年)に戦後の日本女医学会の組織が完成いたしました。1969年(昭和44年)には公益法人社団法人格を取得しております。

戦後の日本女医学会は、女性医師相互の研鑽、親睦及び地位の向上、福の方々への影響が無いように。皇后陛下の一生懸命なお姿……、マスマディアへのご配慮など、優しい人々の面差しも感じる事ができた。リハールは、皇后陛下お迎えから始まる。橋本会長先導。皇宮警察の方が直々にご指導。またご来賓の厚生労働大臣坂口力氏、東京都副知事青山やすし氏、日本医師会会長坪井榮孝氏、国際女医学会長Dr. Shelley Ross氏、青井理事先導登壇、主催者登壇、三神美和と日本女医学会名誉会長、山崎倫子日本女医学会名誉会長の登壇の場まで、警備側、ホテル側、それぞれ動きが活発に、時を駆け足で足しげく、参加会員はおぼんぼんと、それは活動的で協力姿勢であった。感動の幕開けを胸に、百年もの歴史の重さ、ダイヤモンド会員(最長老)の三神美和先生、唐沢寿先生、そのお年とうかがった。サファイア会員(五十年以上会員)の山崎倫子先生、そして代表として登壇し、賞をいただく中濱昌子先生、会をお支えくださいました先達への感謝と、今に生きる責任。なんとすばらしい時間を共有できるのであろうか。その時が刻一刻と迫ってくる。

5月18日午後3時25分、正面玄関に橋本葉子日本女医学会会長、石原幸子百周年記念式典実行委員長、澤口彰子理事、京王プラザホテル社長の四名が緊張の表情と厳肅な足どりで出迎え、スタンバイ。万緑を絹すれの音かすかなり

皇后陛下のお人柄、微笑を持たれて御休所へ。十分ほどのお休み。五階フロアでは、加藤子副会長、橋川ふさ子副会長、野澤良美監事、松本文絵監事の四名がエレベーター前にてお会釈。橋本会長ご先導にて「エミネンスホール」へ。中央をお進みになられる時、一瞬たまたまれ、ライトの中に映し出された。ろうたけき御姿ライトは薔薇となす



## もくじ

- 皇后陛下をお迎えして、世紀の百周年記念式典・祝賀会…… (1)
- 日本女医学会百周年記念式典式辞…… 橋本葉子 (2)
- 日本女医学会百周年記念式典・祝賀会報告…… 石原幸子 (3)
- 皇后陛下のおこぼ…… (4)
- 祝辞…… 坂口力 (6)
- 祝辞…… 青山侑 (6)
- 祝辞…… 坪井榮孝 (7)
- サファイア会員賞をいただき…… 中濱昌子 (7)
- 国際女医学会会長挨拶…… S・ロス (8)
- 米賓祝辞…… 小泉純一郎 (8)
- 祝賀会に参加して…… 斯波 憲子 (9)
- 国際女医学会副会長の祝辞…… J・テイト (12)
- 表彰者芳名…… (12)
- 表彰者よりのお便り…… (14)
- 百周年記念事業寄附者一覧…… (16)
- 編集後記…… (16)

社の増進ならびに地域医療などの社会活動、国際交流と親善を三本柱として活動しております。そのために吉岡彌生賞や荻野吟子賞の授与、學術研究の助成、學術講演研究会や一般市民を対象とする公開講座の開催、健康・医学雑誌への協力、女性医師による青少年の健康支援事業、博覧会の開催期間中や災害時の医療サービス、世界で発生した災害に対する募金活動、国連NGO国内婦人委員会や男女共同参画社会委員会の活動、女性医師ならびに働く女性の環境整備支援など、可能な範囲で活動しております。

いずれも成功裡に終了いたしました。来る2004年には第26回国際女医学会を東京で開催することが決定しております。

また、国際女医学会加盟団体として、1976年(昭和51年)に第15回国際女医学会を東京で開催、1993年(平成5年)には第5回国際女医学会西太平洋地域会議を京都で開催し、

百周年を機に、従来の活動に加え、人材バンクの活用、医療情報誌の刊行なども軌道に乗せたいと考えております。21世紀は女性の世紀といわれております。専門職の集団であります日本女医学会は、女性の視点から社会に貢献する重要な役割を持つて、この創立百周年を期して認識をあらたにし、実行していくことをお誓いし、式辞といたします。

2002年5月18日

社団法人日本女医学会

会長 橋本葉子



「男女共同参画の時代に入った今、女医学会の意味を考へることは、女性の権利と特性を、今後どのように考へていくかという大切な問題にかかわること」と述べられ「医師という厳しい立場で、日々献身している皆さまのご苦勞に感謝します」とのご挨拶を頂戴する。感激の極まり。

16時40分、つがなく式典終了。皇后陛下御休所へ。

続いてご挨拶。橋本会長、石原百周年記念式典実行委員長、澤口理事、ナショナルコーディネーター平敷理事、Dr. Shelley Ross 国際女医学会会長、Dr. Waltraud Diekhans 国際女医学会事務局長、Dr. Jeanat Tai 国際女医学会副会長、Dr. Margaret Maxwell 前国際女医学会副会長、広報、庶務、事業部より各一名、計十一名の拝謁であった。

### ◆祝賀会

場所を懇親会場「コンコルド」へ。小泉内閣総理大臣をお迎え、小泉スマイルを振りまきながらの到着。加藤登紀子女史のギターの弾き語り、書家としての才能をも披露、舞台上に「行灯」を装置として配した。簡素ではあるが、心に残る演出であった。最後に本日の司会進行係りの山本文郎氏(歯切れ良く美しい声が会場にひびきわたった)とのデュエットは、ほのぼのとしたアットホー

ムな雰囲気であった。◆鏡開き 酒樽三個、銘柄は「旭日」、喉ごし清やか、美味絶品。新宿支部会員の藤居静子先生ご経営の造り酒屋よりのご寄贈である。半被(ピンク地衿は紺白地で日本女医学会名、背中にロゴマーク入り)、柙は名入り特注、杓などまで。一同心より感謝、感動。

最後に京王プラザホテルの皆さまの総力あげてのご尽力に心より感謝申しあげます。また日本列島各地よ

## 日本女医学会百周年記念式典・祝賀会報告

日本女医学会百周年記念式典・祝賀会 実行委員長 石原幸子

紫陽花の候、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。アメリカのテロが一段落し、ほっとしたのもつかの間、中東の内乱、インド、パキスタンの原爆騒動など、世界中が静かに暮らす日は無いのでしょうか。犠牲になるのはいつも罪の無い人たちがばかりで、その動機の不純さには、腹立たしい思いがいたします。さて、皆様にご協力いただきまして、日本女医学会創立百周年記念式典及び祝賀会も去る5月18日に、無事終了いたしました。今は夢のように過ぎた忙しかった日々を懐かしく思



# 皇后陛下おことば

日本女医学会が創立百周年を迎え、その佳き日に、シェリー・ロス国際女医学会会長を始め、日本各地から集まられた女医、及びその関係者とお会いいたしますことを嬉しく思います。

日本において、医療を営む女性とは、遠く古代より存在しておりました。大宝律令(701年)の注釈書である令義解には、すでに「女医」の二字が記されており、八世紀前半には、女医を養成する「女医博士」という職種も設けられていたことが伝えられています。江戸時代(160

3~1867年)の初期には、野中婉を始め、二、三の町医が名を留めており、江戸末期には、シーボルトの息女であり、オランダ医学を学んだ楠本いね子、女医史に大きな足跡を残しました。しかし、近代医学が確立され、行政の諸制度が整った明治以降、正規に医師の資格を持つつも、女性が医師としての地位を社会に確立するまでには、長い苦難の歴史があったことが知られております。日本女医学会が創立された明治35年(1902年)、日本では既に荻野吟子を始めとし、百名前後の女



性が公認の開業免許を得、女医となっており、当時の社会において、女医が医師として受け入れられることは決して容易なことではありませんでした。女医会の名の許に、各地の女医が集い、医学情報を交換し、討論を行い、良き医師となるべく互いに磨き合い、励まし合っている姿が想像され、胸を打たれます。百年の歴史を通じ、日本女医学会は、会員である女医の資質の向上を願い、また、女医の存在が少しでも社会の福祉に役立つことを願って活動を続けてまいりました。過去四十年余にわたり、女医の学術研究を助成するとともに、優れた医療貢献や、医療を通じての社会奉仕に対しては、賞をもってこれを評価し、ねぎらっています。吉岡彌生賞、荻野吟子賞という、優れた先達の名を持つこれらの賞を与えられた女医たちは、どれほどに大きな励ましを得、さらなる研究や活動に赴いていったことでしょうか。また、私は、女医会がその初期より公衆衛生を重視し、公衆衛生活動に対し、常に助成を続けていることを嬉しく思っております。近代史上初の女医となり、自ら創設した女子医科大学に、かつて医学史上例のない予防医学の講座をつくり、自身衛生の講義を担当したエリザベ

ス・ブラックウェルは、「どんな新しい薬剤も決して完全な予防の役目をしない」とし、改めて衛生学、公衆衛生学、予防医学に対する世人の関心を喚起したと言われています。百数十年を経た今日も、恐らくこの医学の基本に変わりはなく、日本女医学会が、今後も日本及び世界の各地において地域の人々を病から守り、健康な暮らしを営む上の大きな力となつて下さることを望んでおります。百周年に当たり、女医会の多くの方々が、過去を振り返るとともに、女医会のこれからの思いを馳せておられることと思います。男女共同参画の時代に入った今、女医会の意味を、今後どのように考えていくかという大切な問題にかかわることであり、その答えも決して一様のものであるとは思いません。長い歴史を持つこの会を、これからの時代にさらに意義深くあらしめるよう、会員が心一つに摸索を続けられる中から、会がおのずから未来の姿を形づくっていくことを期待し、日本女医学会の今後を見守っていきたいと思っております。終わりに当たり、医師という厳しい立場で、日々献身しておられる皆様のご労苦に感謝し、会員の皆様の健康と幸せをお祈りいたします。

図 テーシヨン及びリハーサルと呼び出しがかりました。私たち開業医にとりましては、一番痛い時間でしたが、集まったのは、宮内庁、皇宮警察、警視庁、新宿警察、京王プラザホテル、ICS企画の面々で、集まってみますと50~60人の体制で、「私たちのために」と思いますと、身の引き締まる思いが致しました。そして、一分刻みの予定で、皇后様の順路をリハーサルいたしました。大変細かいところまで指導があり、びっくりいたしました。当日、皇后様にお会いいたしますと、そんな苦勞も吹き飛ばしてしまうほどに、美しく気品があり、お顔の周りには後光がさしているようにみえました。おことばの中には、私どもの資料をよく学ばれ、そのご聡明さに一同感激いたしました。式典に美しい花を添えていただいたことに、深く感謝いたしております。次に、開かれました総勢三五〇名の祝賀会には、小泉首相も出席され、祝辞の後鏡開きまで参加され帰られました。忙しい時期にお出でくださったことは大変ありがたいこととうけとめました。今回、会員の中から「五十年会員」を抽出いたし、サファイア会員として表彰することに致しましたところ、何と二六〇余の方々がおられ、びっくりいたしました。さらに最長老の先生方はダイヤ

## Address by Her Majesty the Empress on the Occasion of the 100th Anniversary of the Foundation of the Japan Medical Women's Association

Keio Plaza Hotel, Tokyo, Japan, Saturday May 18, 2002

On the auspicious day of the 100th anniversary of the foundation of the Japan Medical Women's Association, I am very happy to attend the Anniversary Celebration and meet the President of the Medical Women's International Association Dr. Shelley Ross and the women doctors and other persons concerned who have gathered here from all over Japan.

Women practicing medicine have from ancient times existed in Japan. The title "woman doctor" appears already in the Ryonogige, an expositional commentary on the Taiho Code, which was completed in 701. It is also said that in the first half of the 8th century a professional title was adopted that of the "nyoihakase", for those who trained and fostered women physicians. At the beginning of the Edo period (1603-1867), the names of two or three private physicians, including En Nonaka are recorded, and at the end of the Edo period the daughter of Dr. Philipp Franz von Siebold, Ineko Kusumoto, who had studied Dutch medicine, left her mark in the history of Japanese women doctors.

However, it is a well-known fact that since the beginning of the Meiji period when modern medical methods were adopted and various administrative systems were set in place, women, though possessed of the appropriate qualifications, have faced a long and difficult history in establishing a position for themselves in society as female medical practitioners. At the time of the foundation of the Japan Medical Women's Association in 1902, there were approximately 100 women, including such figures as Ogino Ginko, who were officially licensed to practice medicine and who became women doctors. However, in those days it was not at all easy for women to be accepted as medical practitioners. It is truly moving to imagine how women doctors from all around the country gathered together under the name of the Japan Medical Women's Association, to exchange medical information and engage in debate, in pursuit of their goal to become better medical practitioners and offer one another encouragement.

Over the course of its hundred-year history, the Japan Medical Women's Association has continued its activities with the aim of improving the quality of its members as doctors and making women doctors even more beneficial to the welfare of society as a whole. Over the last forty years, in addition to supporting academic research conducted by young women doctors, the Association has valued highly the work of those women doctors who have made an outstanding medical contribution or performed services to society through medical care, expressing its appreciation to the work of these people through the presentation of awards. I imagine how strongly

the recipients of those awards, named after such distinguished women doctors as Yoshioka Yayoi and Ogino Ginko, were encouraged and that this stimulated them on to further research and medical activities. I am also very happy to know that since its early years, the Japan Medical Women's Association has emphasized the importance of public health, and that it has continued to support activities in this area. I would like to mention here the name of Dr. Elizabeth Blackwell, the first female medical practitioner of the modern era. Dr. Blackwell founded the Women's Medical College and initiated an unprecedented course for preventive medicine and was herself responsible for its course in hygiene. It has been said that Dr. Blackwell was of the opinion that no new remedies would ever take the place of sound prevention: thus arousing public interest in hygiene science, public health and preventive medicine. I suppose that today after more than a hundred years since Blackwell's time these fundamentals of medicine have remained unchanged, and I sincerely hope that the members of the Japan Medical Women's Association will continue their efforts to protect the people from disease in Japan and in the various regions around the world, and exert their considerable capabilities to ensure that people may enjoy a sound and healthy life.

On the occasion of the 100th anniversary of the foundation of the Japan Medical Women's Association, I believe that many of you here, while reflecting on the past, are now considering how the Japan Medical Women's Association can apply itself in the future. Given that we are today in the era of gender equality, with equal opportunities for all, to consider the raison d'être of the Japan Medical Women's Association will raise important issues such as how to conceptualize both the rights and the characteristics of women in the future, and I do not think that the answers to these issues will be uniform. I would like to continue to follow the activities of the Japan Medical Women's Association and hope that the Association, with its long history, will create a future for itself as each member seeks ways in which the Association can play an even more significant role in the future.

Expressing my deepest gratitude to you all, who, in your demanding position as doctors, devote yourselves to your daily tasks, I with all my heart pray for the continued health and happiness of all of you and of all the members of the Medical Women's Associations around the world.

Thank you.

モンド会員として表彰することになりました。これらの方々に支えられて今日あることを再認識した次第です。さらにありがたいことに、鏡開きの「酒樽三個、半被(刺繡入り)、酒杵五〇〇個」を新宿支部の藤居静子先生がご寄付してくださいました。その他先輩、会員諸氏より多額の寄付を頂戴いたし、盛大に開会ができたことにありがとうございます。加藤登紀子さんのショウがはじまり、司会の山本文郎アナウンサーのデュエットも飛び入りし、楽しく会を終わることができました。私どもは、この会を一つのステップとして発展させたいと考えておりました。幸い、いろいろのメディアが、取上げてくれましたので、社会の位置付けが出来たと確信をもちました。さらに会長は先日、朝日新聞に大きくとりあげられ、いっそう強くその感をいだいております。これを機会に私たちが多方面に活躍したいと存じますので、会員の皆さまにも一層温かいご支援をお願い申し上げます。最後にありがとうございました。この百周年記念行事に関しご協力くださいましたことに、心よりお礼申し上げます。なお今回は特に事務局、京王プラザホテル、ICSに特にお世話になりました。ありがとうございました。

# 祝辞

厚生労働大臣 坂口 力

本日ここに、皇后陛下の御臨席を賜り、日本女医学会の創立百周年記念式典が開催されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴会が、明治35年の創立以来、女医相互の研鑽、親睦、社会的地位の向上、福祉の増進や地域医療などの社会活動、国際交流と親善などの活動をされ、このたび、創立百周年を迎えられましたことは、皆さまのみなみなならぬご尽力の賜物と存じます。また、貴会は、長年にわたり、医師としての資質の向上にご尽力さ



現在、わが国は本格的な少子高齢社会の到来を目前に控えております。厚生労働行政においても社会経済の活力を維持しながら、国民が安心して暮らせる社会を実現するため、保健、医療、福祉、雇用全般にわたる制度の見直しを進め、効率的で安定した制度の構築に取り組んでいるところであります。このような状況において、良質かつ効率的な医療を提供していくためには、医療従事者の方々の資質の向上が必要不可欠であり、貴会が学術講演研修会や、国際会議などの事業に務められますことは、まことに意義深いことと考えております。

# 祝辞

東京都副知事 青山 侖

中、皆さん方が日々、研鑽を重ねられ、実りある成果を上げられますことを心から期待する次第であります。最後に貴会の今後のますますのご発展

本日、皇后陛下御臨席のもと、社団法人日本女医学会創立百周年記念式典がこのように盛大に開催されること、まことにおめでとうございませう。開催地でございます東京を代表致しまして、心からお祝いの言葉を申し上げます。日本女医学会百年の歴史は、幾多の困難を乗り越えながら、人々の幸福



国民の福祉、国家の医療水準と公衆衛生の向上に多大の貢献をしてきた歴史であると存じます。当初、女性が医師になることさえはばまれた時代に、それを自らの努力と実績によって克服し、日本女医学会が創立されたのは明治35年であるとうけたまわっております。

展ならびに本日のご参集の皆さま方の一層のご健勝とご活躍を祈念しまして私のお祝いの言葉をさせていただきます。

# 荻野吟子賞推せん

平成十四年 荻野吟子賞 授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。  
締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

# 吉岡弥生賞推せん

平成十四年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。  
締め切り期日は、本年十二月二十五日までに願います。  
なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いいたします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- (イ) 医学に貢献した現会員。
- (ロ) 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

私は十年の間隔で二度大手術を受け、一時は意識を失ったこともございましたが幸にも蘇生いたしました。二度目の術後、早いもので二十二年の月日が流れ、喜寿を過ぎました今日、なお生命を授けられていることに深く感謝しております。生命があつたからこそ今回の意義深い式典に参列することができましたし、永年の会員としての賞を頂くことができまして、心から嬉しく存じております。これからは、診療に力をそそぐだけでなく、老人のお話相手や、核家族で育児などに戸惑いがちな若いお母様方の良き相談相手になりたいと存じておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

# サファイア会員賞をいただいで

神奈川支部 中濱 昌子

このたび、由緒ある日本女医学会創立百周年記念式典におきまして、サファイア会員賞を頂戴いたしました。ありがとうございます。その上計らずも代表として壇上で受賞させていただきました。

このたびは、ありがとうございます。

# 祝辞

日本医師会会長 坪井 栄孝

本日、ここに皇后陛下の御臨席を仰ぎ、日本女医学会創立百周年記念式典がかくも盛大に挙行されるにあたり、私も日本医師会を代表し、一言お祝いを申し上げます。

日本女医学会は、女性の社会的地位が確立されていない時代、女性が職業としての医師の道を切り開くため、前田園子先生、吉岡彌生先生らが中心となって、明治35年に創設された



て、私も、東京都からの御挨拶とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございませう。ありがとうございます。ようございました。



# 創立百周年記念祝賀会

私も女医の皆さんが、いろんな分野において活躍の場を広げておられることを喜んでおりますし、私の構造改革を進める、男女共同参画社会を目指す小泉内閣にとりましても、皆さんの発展というのは大変心強く思っております。百周年という大きな節目にあたりまして、今後ますます皆様方のご健勝と女医学会のご発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉にかえさせていただきます。今日は本当におめでとございました。

余談ですが韓国人は公式の行事ですと必ず民族衣装をまとうており、今回もひときわ目を引きました。日

## 祝賀会に出席して

北海道支部長 斯波 憲子

荘厳な中に温かみの感じられる式典の後、会場を移し祝賀会が始まりました。小泉首相は大勢のSPをしたがえて、お忙しい中を駆けつけてくださいました。

ご来賓の方々による樽酒の鏡開きは圧巻でした。樽酒は新宿支部の藤居会員の寄贈によるものだそう、揃いの半被も今日の日のために特注してくださったとのことでした。リラ色に女医学会のマークがきれいに刺しゅうされ、女医会らしく、上品で美しく、印象的でした。檜の香もすがすがしい枳をいただいたのも良い記念となりました。

国際女医学会長、副会長はじめ、韓国女医学会、台湾女医学会などからも遠路はるばるご出席くださり、お祝いのお言葉をいただき、ありがたく感じました。彼女たちとの交流もひときわ華やかで、2004年の国際女医学会開催の成功も、きつと間違いないことでしょう。

余談ですが韓国人は公式の行事ですと必ず民族衣装をまとうており、今回もひときわ目を引きました。日

# 社団法人 日本女医学会 立百周年記念



## 国際女医学会会長挨拶 Dr. Shelley Ross

Your Majesty, Dr. Hashimoto, honored guests, fellow colleagues, ladies and gentlemen.

On behalf of the Medical Women International Association, it is my honor and privilege to bring greetings to the Japan Medical Women's Association and the occasion of your 100th anniversary.

In 1902 when your organization was formed, women in medicine were indeed a rarity, but now in many areas of the world, they number half of the students in medical school classes. With this feminization of medicine comes new challenges for medical women in keeping the status of the profession. It is only such status medical women can have their authority and power to advocate for the rights of women and children.

The Medical Women's International Association has taken on the work of educating doctors around the world about the importance of gender in health and health care.

Gender looks beyond the biological differences between men and women, to include the roles that different societies assign to women and men. These roles interact with the social determinants of health, which include such factors as poverty, culture, religion and education, to influence how women and men are treated. As doctors come to understand these concepts, they will be better able to practice medicine in an efficient and comprehensive manner.

I wish you a wonderful celebration for your 100th anniversary. I want to thank the Japan Medical Women's Association for the excellent work they have done in the last 100 years for both women in medicine and the health of all, women and men, girls and boys.

Thank you.

## 創立百周年記念祝賀会

### 来賓祝辞

内閣総理大臣 小泉純一郎

今日は、お招きいただきましてまことにありがとうございます。式典で、坂口大臣はじめ、多くのご来賓のご挨拶があったと思います。百周年ということ、大変大きな節目であり

今、小泉内閣におきましても男女共同参画時代、いわば構造改革は何も行政機関あるいは企業だけではなく行政機関である。民間でできることは民間でやるんです。この女性も、男性と同じような、あるいは勝るとも劣らない能力を持ってもらえるわけですから、これからは暮らしの構造改革、これが男女共同参画社会の一つの大きな目標でもあります。私の内閣でも五人女性閣僚がいたんですけれど、ちよつと一人減りましてね、そのは珍しいんですよ。

特に百周年といえますけれど、百歳というのは、夢のまた夢と思われるかもしれません。百まで生きるといふのは、ところが最近では、もう百歳以上の方は一万一千人を超えましたね。しかも、その八割以上は、女性ですよ。いかに女性が強いのか、物語っていると思うんですが、その中でも、学識、そして頭脳、見識、いわば一般の国民から見ますと、トップ水準の方々が女医の皆さんであります。今後、ますます、健康に多くの国民の関心が向くと思えます。病気になるって初めて健康のあり

## 第24回学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請ください。さるようお願いいたします。

### 一、助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

### 二、助成金額

一件三十〜五十万円(三件)

### 三、申込手続

(1) 応募資格  
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

### (2) 助成期間

一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。

### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

### (4) 申込期間

平成十四年十二月二十五日(必着)

### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、平成十五年三月開催の日本女医学会理事會において決定し、申請者宛通知する。

### (6) 助成金の贈呈

平成十五年五月開催の日本女医学会総会の席上。

### (7) 受賞者の本会に対する義務

平成十六年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送り先 日本女医学会本部 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二一八一七

電話 〇三三四九八〇五七一



国際女医会副会長Dr. J. Taitの祝辞



すっきりくつろがれた小泉内閣総理大臣の祝辞



祝賀会開会の辞は橋川副会長



前国際女医会副会長Dr. M. Maxwellより記念植樹贈呈



舞台では華やかに鏡開き



東京女子医大吉岡理事長の乾杯のご挨拶



東京都医師会佐々木会長の祝辞



多数の会員が集い、つぎることのない歓談の一刻はいつまでも続いた



加藤登紀子さんのコンサートは、しっとりと出席者の心にしみわたり、深い感銘を与えた



壇上左から坂口厚生労働大臣、青山東京都副知事、坪井日本医師会会長、国際女医会会長Dr. S. Ross



午後3時25分、京王プラザホテル正面玄関に皇后陛下がご到着になった



壇上右から三神日本女医会名誉会長、山崎名誉会長



開会の辞は石原副会長が



サファイア会員を代表して中濱昌子会員が



ダイヤモンド会員を代表して三神名誉会長が



司会は山本文郎アナウンサー



閉会の辞は加藤副会長が



にこやかに気品たよう微笑みとともに、皇后陛下はご退出になられた

関根 みよ (埼玉支部)  
高崎 イツ子 (埼玉支部)  
高山 豊子 (埼玉支部)  
出口 雪枝 (埼玉支部)  
宮崎 雅枝 (埼玉支部)  
宮本 好 (埼玉支部)  
上野 壽子 (栃木支部)  
大平 民子 (栃木支部)  
熊谷 さち (栃木支部)  
小島千恵子 (栃木支部)  
齊藤 富美 (栃木支部)  
杉村 茂子 (栃木支部)  
戸野塚 トシ (栃木支部)  
南里 栄子 (栃木支部)  
日向野 ハツ子 (栃木支部)  
古谷 貞子 (栃木支部)  
飯田千枝子 (茨城支部)  
鈴木 登美 (茨城支部)  
荷見ヒサ子 (茨城支部)  
松岡知恵子 (茨城支部)  
宮本 佳子 (茨城支部)  
稲葉美佐子 (千葉支部)  
今井三四子 (千葉支部)  
大橋 幸子 (千葉支部)  
田那村敬子 (千葉支部)  
二宮 もと (千葉支部)  
花岡 常子 (千葉支部)  
林 千代 (千葉支部)  
久田 タカ (千葉支部)  
日高 歐子 (千葉支部)  
三宅 迪子 (千葉支部)  
和頌美和子 (千葉支部)  
増田須磨子 (足立支部)  
小川 和栄 (荒川支部)  
加藤 光子 (荒川支部)  
土屋 臣子 (荒川支部)  
日野子ヨコ (荒川支部)  
吉武 幸 (荒川支部)

今田 峰子 (板橋支部)  
大畑 信子 (板橋支部)  
林 節子 (板橋支部)  
山上美枝子 (江戸川支部)  
及川 貞 (大田支部)  
大橋 鏡子 (大田支部)  
小林ヤエノ (大田支部)  
斎藤寿賀子 (大田支部)  
清水 有子 (大田支部)  
高橋 千代 (大田支部)  
土井 淑江 (大田支部)  
南雲 君代 (大田支部)  
吉原 次枝 (大田支部)  
依田 幸子 (大田支部)  
関口たか子 (葛飾支部)  
長沼 薫 (葛飾支部)  
日野 久子 (葛飾支部)  
鳴海 すす (品川支部)  
西川 トシ (品川支部)  
山田 規子 (品川支部)  
井沢 金子 (渋谷支部)  
大内 廣子 (渋谷支部)  
岡村 正子 (新宿支部)  
栗原 久子 (新宿支部)  
近藤 トシ (新宿支部)  
今野 信子 (新宿支部)  
良田 圭子 (新宿支部)  
藤森 桂子 (杉並支部)  
大原原キヨ (墨田支部)  
甲子万里子 (墨田支部)  
岡 富美 (世田谷支部)  
嘉悦 敬子 (世田谷支部)  
杉浦 智子 (世田谷支部)  
富川 晶子 (世田谷支部)  
中村 西子 (世田谷支部)  
宮崎 雪枝 (世田谷支部)  
森田 和子 (中央支部)

守屋 孝子 (中央支部)  
吉田 ゆき (中央支部)  
宮川美智子 (千代田支部)  
渡辺 政子 (豊島支部)  
飯鉢 トミ子 (中野支部)  
大谷 明子 (中野支部)  
倉島 撰子 (中野支部)  
古賀 和子 (中野支部)  
白浜 光子 (中野支部)  
関 静 (中野支部)  
渡邊 喜代 (中野支部)  
神山 シツ (練馬支部)  
榊原八千代 (練馬支部)  
関口 喜久 (練馬支部)  
土屋ゆひ子 (練馬支部)  
鳥海千枝子 (練馬支部)  
藤岡 邦子 (練馬支部)  
大久保つる (港支部)  
齋藤 歌子 (港支部)  
鈴木 文子 (港支部)  
穴沢 昌 (目黒支部)  
長内 正子 (目黒支部)  
野間八重子 (目黒支部)  
久保田くら (東女医内支部)  
吉田 茂子 (東女医内支部)  
大田 豊 (都下東支部)  
小幡 文子 (都下東支部)  
清水五百子 (都下東支部)  
鈴木 繁子 (都下東支部)  
都築 俊子 (都下東支部)  
中西 清子 (都下東支部)  
長谷川はじめ (都下東支部)  
山崎 倫子 (都下東支部)  
名取 静子 (都下西支部)  
石川 文子 (都下西支部)  
岩崎 恵美 (神奈川支部)  
鶴養 澄子 (神奈川支部)  
大岡 一子 (神奈川支部)

沖津 くら (神奈川支部)  
川口 正子 (神奈川支部)  
木村きよ子 (神奈川支部)  
小山 咲子 (神奈川支部)  
佐藤 智恵 (神奈川支部)  
高梨千枝子 (神奈川支部)  
玉木 慶子 (神奈川支部)  
塚原千代子 (神奈川支部)  
土屋 和子 (神奈川支部)  
永田 夏子 (神奈川支部)  
中濱 昌子 (神奈川支部)  
野中 久子 (神奈川支部)  
泊谷 礼子 (神奈川支部)  
羽根田道代 (神奈川支部)  
菱沼 愛子 (神奈川支部)  
舟久保智子 (神奈川支部)  
村市あさの (神奈川支部)  
村上リョウ (神奈川支部)  
山崎 昌子 (神奈川支部)  
小林 梅子 (神奈川支部)  
嶋崎紀代子 (山梨支部)  
花輪とめ (山梨支部)  
古屋 節子 (山梨支部)  
保坂 正枝 (山梨支部)  
堀田 鈴子 (山梨支部)  
山田 直枝 (山梨支部)  
渡辺志げ子 (山梨支部)  
石川 美重 (静岡支部)  
木佐森可也子 (静岡支部)  
関本 久栄 (静岡支部)  
原 壽々代 (静岡支部)  
村松 みさ (静岡支部)  
山本 和子 (静岡支部)  
小谷 照子 (愛知支部)  
佐分 妙 (愛知支部)  
瀬谷 朝子 (愛知支部)  
館野 茂子 (愛知支部)  
奈倉 早苗 (愛知支部)

野畑 鏡子 (愛知支部)  
野村 きき (愛知支部)  
長谷川恒子 (愛知支部)  
原田チイ子 (愛知支部)  
古川恵美子 (愛知支部)  
山田恵美子 (愛知支部)  
山田 貞子 (愛知支部)  
甘利 貞子 (長野支部)  
安藤 暉子 (長野支部)  
草間富美子 (長野支部)  
黒澤 安子 (長野支部)  
関 俊子 (長野支部)  
松尾 智子 (長野支部)  
佐藤栄美子 (新潟支部)  
本間 ムツ (新潟支部)  
島田 淳子 (富山支部)  
宝田 雅子 (富山支部)  
中村富美子 (富山支部)  
飛見 澄子 (富山支部)  
小林 ハル (石川支部)  
上田美知子 (石川支部)  
芦沢 久子 (福井支部)  
大貫 京子 (滋賀支部)  
大里 哲子 (大阪第3支部)  
辻見 恵 (大阪第3支部)  
富山 艶子 (大阪第4支部)  
渡辺 良子 (大阪第5支部)  
野呂 幸枝 (大阪第6支部)  
松本 章子 (大阪第6支部)  
大原 一枝 (大阪第7支部)  
鮫島 美子 (大阪第7支部)  
弓場 光子 (大阪第7支部)  
松岡 和子 (大阪第10支部)  
杉本 睦子 (兵庫支部)  
高岡 英子 (兵庫支部)  
西井 美子 (兵庫支部)  
野村やおい (兵庫支部)  
波田 幸子 (兵庫支部)

藤沢 一子 (兵庫支部)  
宮地 民子 (兵庫支部)  
森鼻 麗子 (兵庫支部)  
山本 節子 (兵庫支部)  
飯尾 孝子 (岡山支部)  
井上 澄江 (岡山支部)  
杉 久子 (岡山支部)  
小倉タエコ (広島支部)  
花木美智恵 (広島支部)  
増田 文枝 (広島支部)  
相原 村子 (鳥取支部)  
泰 幸枝 (鳥取支部)  
三代真基子 (島根支部)  
青柳 雪子 (山口支部)  
嶋本マサコ (山口支部)  
長 芳枝 (山口支部)  
三沢 三代 (山口支部)  
野田 富子 (香川支部)  
西山登紀子 (愛媛支部)  
鎌田 小夜 (徳島支部)  
福永 培子 (徳島支部)  
山田 繁子 (徳島支部)  
大井田三重 (高知支部)  
窪 敦子 (高知支部)  
小出つる子 (高知支部)  
出原 輝子 (高知支部)  
山崎 操 (高知支部)  
片山 幸子 (福岡支部)  
直村 貞子 (福岡支部)  
林 馨 (福岡支部)  
緒方 文江 (佐賀支部)  
坂田 道子 (佐賀支部)  
千住 冬子 (佐賀支部)  
武岡 秀子 (佐賀支部)  
田中真千子 (佐賀支部)  
平松規矩子 (佐賀支部)  
福島 順子 (佐賀支部)  
諸井ミサヲ (佐賀支部)

社団法人日本女医会創立百周年記念式典次第

開式の辞  
国歌斉唱  
日本女医会会長式辞  
皇后陛下お言葉  
厚生労働大臣祝辞  
来賓祝辞  
表彰  
ダイヤモンド会員  
サファイア会員  
閉式の辞

五階エミナス 16:00~16:40  
日本女医会副会長 石原 幸子  
日本女医会会長 橋本 葉子  
厚生労働大臣 坂口 力  
東京都副知事 青山 侑  
日本医師会会長 坪井 栄孝  
国際女医会会長 Dr. Shelley Ross  
日本女医会副会長 加藤 竺子

社団法人日本女医会創立百周年記念祝賀会次第

開会の辞  
日本女医会会長挨拶  
内閣総理大臣祝辞  
国際女医会副会長祝辞  
百周年記念植樹贈呈式  
鏡開き・乾杯  
祝宴・歓談・来賓祝辞等  
祝辞  
来賓紹介  
祝電披露  
アトラクション  
閉会の辞

五階コンコード 17:30~19:47  
日本女医会副会長 橋川ふさ子  
日本女医会会長 橋本 葉子  
内閣総理大臣 小泉純一郎  
国際女医会副会長 Dr. Jeanette Tait  
前国際女医会副会長 Dr. Margaret Maxwell  
東京都医師会会長 佐々木健雄  
日本女医会副会長 石原 幸子

国際女医会副会長の祝辞

Medical Women's International Association  
Vice President  
Dr. Jeanette Tait

ありがとうございます。  
The prime minister Koizumi, President of the Japan Medical Women's Association, Dr. Hashimoto, President of the Medical Women's International Association, Dr. Shelley Ross, my Japanese colleagues, and my international colleagues and honored guests.  
本日はおまねきいただき大変光栄でございます。  
The Japan Medical Women's Association has done many great honor inviting me to celebrate first 100 years. It is much pleasure that I speak to you tonight. While in Japan, I had a great honor and pleasure to meet, several of your women colleagues, of your women doctors, who have not only shown me with great kindness and hospitality, but actually great doctors and highly respected internationally in a chosen fields of medicine.  
More than 100 years ago, and for much of the last century, it took break courage and termination by women, break down the barriers of male dominate profession to open the doors to our profession to women. Japan Medical Women's Association has played very large role in supporting and nurturing Japanese medical women and young doctors, are now coming true. I congratulate to you on reaching your Centenary. I wish every success in a coming 100 years.  
どうもありがとうございます。

表彰者芳名

ダイヤモンド会員  
サファイア会員

◆ダイヤモンド会員  
唐沢 寿 (葛飾支部)  
三神 美和 (世田谷支部)  
◆サファイア会員  
河瀬 珍実 (北海道支部)  
川南 サチ (北海道支部)  
齋藤 操 (北海道支部)  
柴田 夫佐 (北海道支部)  
角掛 二三 (北海道支部)  
阿部 久代 (青森支部)  
近藤 智子 (青森支部)  
館田 恭子 (青森支部)  
対馬 とせ (青森支部)

福原 輝 (青森支部)  
堀内 夏子 (青森支部)  
前田 慶子 (青森支部)  
三浦多恵子 (青森支部)  
横内 幸子 (青森支部)  
加藤 芳 (秋田支部)  
梅原 ミヤ (宮城支部)  
鎌田 宣子 (宮城支部)  
小松 良子 (宮城支部)  
齋藤千代子 (宮城支部)  
長池 博子 (宮城支部)  
福原恵比子 (宮城支部)  
松原 恵子 (宮城支部)

松山 京子 (宮城支部)  
三品 房子 (宮城支部)  
油井 フミ (宮城支部)  
菊池 壽子 (福島支部)  
池上 博子 (群馬支部)  
佐藤 京子 (群馬支部)  
角田智恵子 (群馬支部)  
戸塚 俊子 (群馬支部)  
安藤まさ子 (埼玉支部)  
岡田 清 (埼玉支部)  
柿沼 泰子 (埼玉支部)  
佐々木道子 (埼玉支部)  
清水 静枝 (埼玉支部)



# 記念出版「日本女医会百年史」刊行される

B5判口絵4頁本文272頁 朱色クロス装 上製貼函入り 頒価2,500円(送料共)

〈本書口絵の第1頁を下に転載しました〉

## 日本女医会今昔



●日本女医会最古の写真。宇良田唯子のドイツ留学送別会を兼ねた新年会での記念写真(1903.1.4/東京・富士見軒)。前列右より、塚原雄子、前田園子、鷺山(吉岡)彌生、宇良田唯子、高橋孝子、河野桃野、後列右より、中村菊子、天田鶴子、大八木幸子、賀川哲子、中村愛子



●日本女医公許50周年記念祝賀会(1936.5.10/上野・精養軒)

### 第32回日本女医会総会



●第32回日本女医会総会(1987.5.24/大阪・ツインタワーMIDシアター)

### 表彰者よりのお便り (敬称略、順不同)

品川 葉子(長崎支部)  
哲翁富士子(長崎支部)  
寺尾 敏子(熊本支部)  
間部 正子(熊本支部)  
山本 節子(熊本支部)

坂梨 ミチ(宮崎支部)  
柘山 緑(宮崎支部)  
池堂ハルミ(鹿児島支部)  
市来フジエ(鹿児島支部)  
黒木 三代(鹿児島支部)

#### ◆清水 有子(大田支部)

思いがけず今回のご慈愛、またまた命に気合を入れられたように、枯木に慈雨を賜りました。感無量なれど、つつしんで拝受し、お礼申し上げます。八十四歳になりました。

#### ◆相原 村子(鳥取支部)

なんとなく五十年を過ごしてまいりました私どもに対し、サファイア会員として表彰して下さい、また高価な記念品までお送りいただき、本当に恐縮のきわみでございます。心よりあつくお礼申し上げます。

#### ◆飛見 澄子(新潟支部)

幼少の頃より父からいつもいわれられておりましたので、当然のことをしていると思っておりましたのに、思いがけず賞状を頂戴し、今更のようには驚いております。感謝の気持ちでいっぱいでございます。

#### ◆山田 繁子(徳島支部)

本日は思いがけなく、サファイア会員としての賞状、記念品、その他

#### ◆長池 博子(宮城支部)

このたびはサファイア会員としての表彰と記念品をご送付下さいまして、ありがとうございます。大切にしたいと思います。あいに健康の都合で参加できませんでしたが、ことを残念に思っております。

#### ◆都築 俊子(都下東支部)

このたびは百周年をむかえられ、記念のお品、百年史など、お送りいただき、ありがとうございます。女医会ますますのご発展をお祈りいたします。

#### ◆佐分 妙(愛知支部)

このたびは、サファイア会員として、賞状、記念品、百年史をお送りくださいまして、ありがとうございます。なんとかまだ元気です。開業医の道歩んでおります

#### ◆野田 富子(香川支部)

過日は賞状をお贈りいただきありがとうございます。大切に致したいと思っております。大盛会おめでとう！この度の式典、会長先生始めお世話下さった先生方、本当にご苦労さまでした。さぞお疲れの事と存じます。

#### ◆菊地 寿子(福島支部)

何のお役にも立ちませんが、申訳なく存じておりますのに、身に余るお言葉と立派な記念の品をご恵与にあ

が、皆さまにご迷惑をおかけしないようにとのみ念じております。

#### ◆上野 壽子(栃木支部)

百周年記念式典にお招きいただき、ありがとうございました。出席できず、失礼いたしました。本日記念品と百年史の本をお送りくださいまして、ありがとうございます。ゆっくり読ませていただきます。

#### ◆井沢 金子(渋谷支部)

本日は記念品をお送りください、ありがとうございます。お礼申し上げます。

#### ◆佐々木道子(埼玉支部)

このたびは日本女医会創立百年にあたり、身に余る賞をいただき、また日本女医会百年史とともに記念品と世界最初の女性医師のご著書までお届けいただきまして、まことにありがとうございます。百年史には吉岡先生はじめ、歴代会長先生のお写真やらお骨折りのかずかずをなつかしく拝見させていただいております。

#### ◆野田 富子(香川支部)

過日は賞状をお贈りいただきありがとうございます。大切に致したいと思っております。大盛会おめでとう！この度の式典、会長先生始めお世話下さった先生方、本当にご苦労さまでした。さぞお疲れの事と存じます。

#### ◆菊地 寿子(福島支部)

何のお役にも立ちませんが、申訳なく存じておりますのに、身に余るお言葉と立派な記念の品をご恵与にあ

ずかり、厚くお礼申し上げます。

#### ◆高岡 英子(兵庫支部)

つねづね何かとお世話さまに相成り、本日はまた身に余る賞状ならびに記念のお品を拝受、恐縮に存じます。末永く家宝と致してまいります。ご芳情あつくお礼申し上げます。

#### ◆熊谷 さち(埼玉支部)

日本女医会百周年記念式典ご盛会誠にありがとうございます。百年史はたいそう見やすく、読みやすく豊富に編集されて、感心いたしました。大きさも、厚さも、美しさも適当で開いてみたく本に出来上がっていると思えました。

#### ◆花輪とめじ(山梨支部)

賞状、記念品をお送り下さいまして誠にありがとうございます。九十一歳になった現在もまだ診療を続けている以外には女医会のために何のお役に立っておりませんのに、申訳ございません。昭和20年に戦災で郷里の山梨に疎開して以来、五十六年になります。一日百人ぐらいの患者さんを診療し、夜中まで自車で往診し一日三時間しか眠れない晩が続いても体力と精神力ががんばったものでした。

#### ◆齋藤 操(北海道支部)

これからも体力の続く限り地域医療のため尽くしたいと思っております。本、賞状、記念品をいただき感謝

に絶えません。視力の低下、歩行困難のため、平成13年10月31日をもって廃業しました。眼精疲労にもかかわらず、「世界最初の女性医師」一気読ませていただきました。大きな渦巻きとなって私を激励してくれ

#### ◆和頼美和子(千葉支部)

サファイア会員として賞状まで賜りまして厚くお礼申し上げます。昭和10年卒後すぐに郷里での「開業医生活」を始め、戦争前後の厳しい時代でも常に「患者さんこそ先生」でした。昔の思い出話はお陰、今は外来で患者の家族の方々と話し「語り部」の役をしています。

#### ◆杉淵 智子(世田谷支部)

記念品等をいただきまして、誠に恐縮しております。全く何の役にも立てませんが、申しわけなく思っております。

#### ◆窪 敦子(高知支部)

「百年史」、大原先生とお父様との共訳の「世界最初の女性医師」共に百周年記念に適切な企画であったと感激しました。女性医師に関する歴史を思う時、女性医師の必要性を改めて教えられ、先輩たちの敷かれた道を歩いて来られたことを幸せであつたと思えます。さらにこの後も同じ思いをされる方がいること、女性医師のますますの人類への貢献を期待しています。



百周年記念事業寄附者一覽 (第3回・平成14年6月21日現在)

Table listing donors with columns for name (氏名), branch (支部), and affiliation (所属). Includes names like 青木正美, 上野美代, 大澤真木子, etc.

地域医療奉仕活動に対する助成のご案内

平成14年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行なっている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締切は平成14年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会 事業部

公開講演会開催依頼について

各支部におかれまして公開講演会を開催して頂き、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んで、公衆衛生活動にご参加くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。各支部から開催のお申し出があれば、資金、演者派遣などご希望に応じて、協力させていただきます。

事業部

「日本女医会百年史」正誤表

Table with columns for page number (ページ), error type (誤), and correction (正). Lists errors in the 100th anniversary history book.

集記

百周年記念行事の余韻を味わいながらの編集会議であった。日本女医会の歴史的な一頁になった式典・祝賀会の記録を明確に残すために特集号とした。写真はカラーで、紙は特別な紙を使用することで、当日の雰囲気と感動を再現した。繁忙な日々の一時の休息に役立てば何よりだ。今日の医療の現状は極めて厳しい。史上初の2・8%ダウンとなった4月の診療報酬改定、10月実施の老人医療費の割負担、15年予定の介護保険制度の改定等、課題山積である。地域医療に命を懸けて来た多くの先輩女医たちの足跡に学び、今こそ女医会会員の団結と勇気ある行動によって、この難局を乗り切らなければならないことを痛感する。(松井)

日本女医会誌

第171号 平成14年7月25日発行
編集人 大坪公子
発行人 橋本葉子
制作 (株)金剛出版
発行所 社団法人 日本女医会
東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769
http://www.jade.dti.ne.jp/~jmwa/
e-mail address: jmwa@jade.dti.ne.jp